（政務活動費用）　　（様式１）

出　張　報　告　書

令和４年11月30日

釧路市議会議長　松永　征明　様

会 派 名　自民市政クラブ
代表者名　草島　守之

次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受　命　者	髙橋　一彦
出　張　先	札幌市
期　　間	令和４年11月３日　～　令和４年11月５日（３日間）
用　　務	第93回教育委員会対象セミナー ICT機器の整備／校務の情報化の推進 「GIGAスクール構想 ICT 機器の整備・活用」
調査（研修）結果等の概要	別紙の通り
備　　考	

注）１　資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。
２　調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

第93回教育委員会対象セミナー

ICT機器の整備／校務の情報化の推進

テーマ課題

「GIGAスクール構想　ICT　機器の整備・活用」

開催日時　　11月4日（金）
　　11月5日（土）

会場　　北海道自治労会館　大ホール
　　札幌市北区北6条西7丁目5-3

参加者　　自民市政クラブ　髙橋　一彦

全国の小中学校に「一人一台端末」と(高速大容量の通信ネットワーク」を整備する「ＧＩＧＡ)スクール構想」。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で全国の学校が臨時休校を余儀なくされたこことを受け、「一人一台端末」実現時期の前倒しや、緊急時の在宅オンライン学習に備えた通信環境整備などを含む緊急経済対策も成立し停滞していた「教育現場におけるＩＣＴ化」が「ＧＩＧＡスクール構想」のもと、今後、２・３年で急速に進むことになります。

文部科学省は２０１９年１２月に発表した「ＧＩＧＡスクール構想」で　全ての子どもが家庭でも授業を続けられるようにするための通信整備にも新たな予算が充てられ、さらに、急速に進められる学校のＩＣＴの導入を技術的に支援するため、専門知識を持つた「ＧＩＧＡスクールサポーター」を配置する費用も盛り込まれました。

整備された学校では教育環境が子ども一人一人に個別最適化されることで創造性を育み、資質や能力をより確実に引き出す効果が期待されています。

教師がデジタル教材を活用した授業を行えるだけでなく、一人一人の反応や考えを把握できるため、よりきめ細かな双方向型の授業を実施できるようになります。

また、理解度や習熟度、教育ニーズに応じて別々の内容を学習させられるようになり「個別学習」の可能性も大きく広がると思われます。

児童・生徒たちの学習の形を作り変える一方で、教育委員会、学校にも実務面での改革が必要であり、授業に必要な全機能を備えた「学習者用端末の標準仕様」、「校内ＬＡＮ整備の整備の標準仕様」、「教員の情報化に関する手引き」など含まれています。

これまで教育現場のセキュリティ設計は２０１７年に策定され、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を基本としてきましたが整備の硬直化が問題になっていました。そこで、

、ＧＩＧＡスクール構想に合わせて、(クラウド・バイ・デフォルト)の原則を教育現場にも適用。
合わせて、従来のガイドラインでは尊守すべき「対策基準」だった項目を「参考資料」とし、急速に広がっているクラウドサービスの活用についても対応できるようにし、柔軟かつ低コストでの環境整備を検討出来るようになった反面 、使用環境に応じた適切なセキュリティポルシーの確立が求められています。
「一人一台端末」にあると動画コンテンツなどで授業の幅が広がる一方、通信の集中によるボトルネックが懸念され、教育委員会のサーバーを介さず学校から直接ネツト接続すればボトルネツクは避けられますが、外部からの攻撃に対するセキュリティ対策は学校ごとにセキュリティの課題を把握し、適切なＩＣＴ運用を行うための責任体制の構築やルールの明確化、ＩＴリテラシー教育などを実施する必要があります。
多くの学校には、教員の働き改革と教育の質の向上を実現する「統合型校務支援システム」が導入されていますが、ベテランを中心にＩＣＴに消極的な教員も少なくありません。しかし、「ＧＩＧＡスクール構想」」では例外なくＩＴリテラシーが低い教員にもセキュリティ上のリスクを周知させなければいけません。
児童生徒の保護者についても考える必要があります。
経済的な理由から自宅でインターネツトを使えてこなかった子どもが、自宅で平等な学びの機会を得られるようになるのは朗報ですがＩＴリテラシーの低い保護者が、使い方も監督しないようなケースも考えられます。北海道庁ＩＣＴ教育推進課では「ＩＣＴ活用ポータルサイト」を開設し、先生方が授業でＩＣＴを活用する際の参考となる情報を集約しています。例えば事業モデルＴｉｐｓ編では、全道の小・中学校、高等学校、特別支援学校で実践されているＩＣＴの活用例を175事例記載しています。授業モデルデザイン編は、場面ごとのヒント集であるＴｉｐｓ編と異なり、授業全体を通してどのようにＩＣＴを使うかという流れを示しています。

1時間の授業の中で「どのアプリを使うか」「どの場面で使うか」「一斉学習・個別学習・協働学習のどこで使うか」などが分かるような内容にするとともに、校種別、教科別に様々なモデルを紹介しています。

また、研修動画やＩＣＴに係るリンク集など多くのコンテンツを記載しているので、授業づくりや校内研修等、ツールとして活用されています。

石狩市双葉小学校ではＩＣＴ担当者がまとめ役となり、各分掌と関連を明確にしてプロジェクトチームを編成して、タブレット端末に関わるルールや活用方法について検討してきました。

そして、検討した内容を職員会議で全職員が共有して、月一回実施されているＧＩＧＡ研修を通して教職員のスキル向上を図っています。

国語の授業に関しての成果として、毎時間、「何を学ぶのか」を児童が意識して学びを積み重ねることができ、問いを設定したり、考える視点を提示することで、深く考える（読む）ことへつなができました。

課題として児童の考えや感想をより生かした学習計画づくりの必要性、読むことが苦手な子や対話が苦手な子への支援、更に深く読んだり、読書意欲へと繋がるような支援が必要である。

今後に向け　さらなるＩＣＴ活用力の向上のための研修、主体的で対話的、協動的な学びのある授業デザインのもとでＩＴＣ活用する、情報教育カリキュラムと教育課程との繋がりを意識した授業活用をする。ＩＣＴ機器に頼りすぎないことも大事（活用するべきか、しない方がよいのか判断）、さらに活用しやすいソフトやドリルの導入、持ち帰りタブレットの重さとタブレットを利用した家庭学習習慣、デジタルシチズンシップや情報モラル指導が考えられます。